

シラバス集

小山歯科衛生士専門学校

歯科衛生学科 1 年

2025 年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単位	単位時間数	時間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑪		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習➡授業➡復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

平成31年度入学生から、下記のカリキュラムを適用する。

歯科衛生学科 授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則の単位数	授業形態	学 則		1年次				2年次				3年次			
					単位数	時間数	前期		後期		前期		後期		前期		後期	
							単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	生物学	10	講義	1	15	1	15										
		総合基礎		講義	2	30	2	30										
		統計学		講義	1	15										1	15	
		歯科医療接遇		講義	2	30					2	30						
		情報科学		演習	2	30	1	15	1	15								
		コミュニケーション学		演習	2	30	1	15	1	15								
	基礎分野・小計		10		10	150	5	75	2	30	2	30	0	0	0	0	1	15
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能	解剖学	4	講義	1	15	1	15										
		生理学		講義	1	15			1	15								
		生化学		講義	1	15			1	15								
		栄養学		講義	1	15					1	15						
	歯・口腔の構造と機能	組織発生学	5	講義	1	15	1	15										
		口腔解剖学Ⅰ		講義	2	30	2	30										
		口腔解剖学Ⅱ		演習	1	15			1	15								
		口腔生理学		講義	1	15			1	15								
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	6	講義	1	15	1	15								1	15	
		口腔病理学		講義	1	15												
		薬理学		講義	2	30	2	30										
		微生物学		講義	2	30			2	30								
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・福祉論	7	講義	2	30										2	30	
		衛生学総論		講義	1	15	1	15										
		口腔衛生学		講義	2	30			2	30								
		公衆衛生学		講義	2	30			2	30								
	専門基礎分野・小計		22		22	330	8	120	10	150	1	15	0	0	3	45	0	0
専門分野	臨床歯科学	歯科衛生士概論	2	講義	2	30	2	30										
		歯科保存学	8	講義	1	15					1	15						
		歯周療法学		講義	1	15					1	15						
		歯科補綴学		講義	1	15					1	15						
		口腔外科学・麻酔学		講義	1	15					1	15						
		小児歯科学		講義	1	15					1	15						
		歯科放射線学		演習	1	15					1	15						
		歯科矯正学		講義	1	15					1	15						
		障害者・高齢者歯科学		講義	1	15					1	15						
	歯科予防処置論	予防システム論	8	講義	1	15	1	15										
		歯周病予防法Ⅰ		実習	2	60	1	30	1	30								
		歯周病予防法Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60				
		う蝕予防法Ⅰ		講義	1	30	1	30										
		う蝕予防法Ⅱ		実習	1	30					1	30						
	歯科保健指導論	保健指導論Ⅰ	7	実習	4	120	2	60	2	60								
		保健指導論Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60				
	歯科診療補助論	歯科診療補助法Ⅰ	9	実習	2	60	1	30	1	30								
		歯科診療補助法Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60				
		業務管理		講義	1	15							1	15				
		医療安全		演習	2	30									2	30		
	臨地実習(臨床実習を含む。)	実習指導Ⅰ	20	演習	1	30			1	30								
		実習指導Ⅱ		演習	2	45					1	15	1	30				
		実習指導Ⅲ		演習	3	90									2	60	1	30
		臨地・臨床実習Ⅰ		実習	1	45			1	45								
		臨地・臨床実習Ⅱ		実習	5	225							5	225				
		臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅰ		実習	5	225									5	225		
		臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅱ		実習	5	225											5	225
	専門分野・小計		54		58	1755	8	195	6	195	16	345	13	450	9	315	6	255
選択必修分野	医学基礎	7	講義	1	15										1	15		
	知識の統合		講義	3	90										1	30	2	60
	総合歯科学		講義	3	90												3	90
	特別活動Ⅰ		演習	2	45	1	15	1	30									
	特別活動Ⅱ		演習	1	15					1	15							
選択必修分野・小計		7		10	255	1	15	1	30	1	15	0	0	2	45	5	150	
合 計		93		100	2490	22	405	19	405	20	405	13	450	14	405	12	420	

※ 講義及び演習科目は15～30時間、実習科目は30時間、臨地実習及び臨床実習は45時間の授業時間をもって1単位とする。

授業科目名	生物学		実務経験講師	○
担当教員名	山内 忍		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	8回	
単 位 数	1単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	生物学では、歯科医学、および歯科衛生学の基礎となる人体の成り立ち、仕組み、はたらきを理解するために必要となる基本的な項目を学習します。			
授業科目の到達目標	1. 生命を構成する基本物質の概要を説明できる 2. 細胞の構造と機能の概要を説明できる 3. 細胞代謝の概要を説明できる 4. 遺伝子と遺伝の概要を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	生物をつくる物質 (水、有機化合物、無機化合物)	講義	教科書(p.2～5、p.16～21)を読んで授業内容を再確認する
2	細胞と組織 (細胞、組織、器官)	講義	教科書(p.22～28、p.39～47)を読んで授業内容を再確認する
3	細胞の活動 (代謝、情報伝達)	講義	教科書(p.28～35)を読んで授業内容を再確認する
4	遺伝子と遺伝 (セントラルドグマの各過程)	講義	教科書(p.55～68)を読んで授業内容を再確認する
5	細胞の一生 (体細胞分裂、減数分裂、発生)	講義	教科書(p.36～39、p.50～54、p.69～72)を読んで授業内容を再確認する
6	刺激の受容と反応 (電気、興奮の伝導・伝達)	講義	教科書(p.74～83)を読んで授業内容を再確認する
7	体内環境の調節 (ホメオスタシス、内分泌系と自律神経系、生体防御)	講義	教科書(p.84～96)を読んで授業内容を再確認する
8	定期試験	試験	

使用テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 生物学
参考書・資料 等	各自が高校生物で使用した教科書、参考資料
この授業科目を前提とする主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	解剖学、生理学、生化学、組織発生学など
成績評価の方法	定期試験、出席状況、授業態度を総合して評価する。
その他 受講生への要望等	苦手意識をつくらないように、わからないことがあればどんどん質問して疑問を解決しておくこと

授業科目名	総合基礎	実務経験講師	—
担当教員名	岩瀬明雄、中津原 聖	実務経験	—
開講年度	2025年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	・基礎数学と文章表現の 2 本柱で進む科目です。 ・基礎数学は予防処置や保健指導をする際にフッ化物の濃度の計算ができるようにするための学習です。 ・文章表現は歯科医院で、患者さんに対応する際や電話応対する時に美しい日本語で話せるようにするための学習です。		
授業科目の到達目標	1. 四則演算の意味を理解し、正確に計算ができる 2. 単位の意味を理解し、的確に単位表示ができる 3. 割合、平均、濃度を求める計算ができる 4. 主語と述語、句読点の使い方などの文章の基本を習得する 5. 文章を理解する 6. レポートを適切に書くことができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	足し算、引き算、掛け算、割り算の基礎（基礎数学）	講義	プリントの復習
2	文の構成	講義・例文・テスト	プリントの復習
3	文節・単語・熟語・四字熟語	講義	プリントの復習
4	文章表現・主語と述語	講義・熟語作成	プリントで作成宿題
5	小数、分数の計算（基礎数学）	講義	プリントの復習
6	文章表現・修飾語と被修飾語・敬語	講義・例文・テスト	プリントの復習
7	割合（百分率・歩合）（基礎数学）	講義	プリントの復習
8	平均（基礎数学）	講義	プリント復習
9	文章表現・言葉の意味と使い方・並立・補助	講義	プリントの復習
10	濃度（基礎数学）	講義	プリントの復習
11	文章表現・自立語・文章の理解	講義・テスト	プリントの復習
12	水溶液の計算（％、ppm）（基礎数学）	講義	プリントの復習
13	復習・練習問題	講義・例文テスト	プリントの復習
14	フッ素の中毒量の計算（基礎数学）	講義	プリントの復習
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	教務作成プリント 中学国語の総復習から抜粋
参考書・資料 等	くもん出版 中学国語の総復習 教育出版 教科書ワーク算数

この授業科目の前提となる主な科目	国語・数学
この授業科目から発展する主な科目	保健指導論、う蝕予防法
成績評価の方法	筆記試験、授業態度、宿題提出
その他 受講生への要望等	言葉の使い方、敬語の使い方を学んで活用できるようにする。濃度の計算ができるようにする。 復習をきちんとしましょう。

授業科目名	情報科学 前期		実務経験講師	—
担当教員名	岩瀬 明雄		実務経験	—
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	情報に関する基本的な事柄を理解し、患者に関する情報の種類・重要性・取扱い方法について理解することを目的とした科目となります。 基本的には、パソコンの基本操作を修め、情報器具を活用した論文作成を行う能力を身につけます。さらに、歯科衛生士として働く上で最低限必要な知識が実践できるよう演習により学習します。			
授業科目の到達目標	1. Word を用いて、基本操作法を学習しビジネス文書を身につけることができる 2. 仲間と協力しながら、教え合い、学び合いができる。 3. 自分の能力に応じて、意欲的に学ぶ姿勢を身に付ける。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	インターネットの使い方 オリエンテーション	講義 演習	
2	日本語入力、文書の移動・コピー、ビジネス文書作成 キーワード:半角・全角 P32～P52	演習	簡単なビジネス文書 (実習1)
3	Word 表を活用した文書の作成① キーワード:文字修飾、 P53～P62	演習	文書作成 練習問題 (例題13、19,20)
4	Word 表を活用した文書の作成② キーワード:表、罫線 P52～P76	演習	罫線表を含む文書作成 練習問題
5	Word 画像を利用した文書の作成 P77～P95 キーワード:罫線表、ワードアート、クリップアート	演習	画像を利用した文書の作成 練習問題
6	Word 画像を利用した文書の作成 P77～P95 キーワード:罫線表、ワードアート、クリップアート	演習	画像を利用した文書の作成 練習問題
7	試験練習問題	演習	
8	定期試験	試験	

使用テキスト	30 時間でマスター Office2019
参考書・資料 等	必要に応じて、講義中に補助教材を配布する。
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	試験にて評価を行う。 但し、出席回数が規定に満たなかった者は評価対象としない。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	情報科学 後期		実務経験講師	—
担当教員名	岩瀬 明雄		実務経験	—
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	情報に関する基本的な事柄を理解し、患者に関する情報の種類・重要性・取扱い方法について理解することを目的とした科目となります。 基本的には、パソコンの基本操作を修め、情報器具を活用した論文作成やプレゼンテーションを行う能力を身につけます。さらに、歯科衛生士として働く上で最低限必要な知識が実践できるよう演習により学習します。			
授業科目の到達目標	1. Excel を用いて、基本操作法を学習し、簡単な統計的資料を作成することができる 2. 仲間と協力しながら、教え合い、学び合いができる。 3. 自分の能力に応じて、意欲的に学ぶ姿勢を身に付ける。1. 統計的な基礎知識を身につけ、統計手法を活用できる 4. 統計的な考えかたが理解できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	Excel データ入力、ワークシートの基本的な扱い キーワード:オートフィル 演算子 P96～P102	演習	表作成と合計値の計算 (実習 10、11、12、13)
2	Excel データ入力、ワークシートの基本的な扱い キーワード:オートフィル 演算子 P103～P119	演習	表作成と合計値の計算 (実習 14、15)
3	Excel 関数の取扱、罫線の設定 キーワード:SUM、AVERAGE、MAX、MIN P120～P124	演習	平均、最大、最少等の関数 (実習 16、17、18、22)
4	Excel 関数の取扱、罫線の設定 P125～P141 キーワード: COUNT ,COUNTA、相対参照・絶対参照	演習	平均、最大、最少等の関数 (実習 16、17、18、22)
5	Excel セル参照、ソート、条件判定、順位付け キーワード:IF,RANK.EQ P152～P160	演習	相対参照、絶対参照の演習 (実習 34、35、36)
6	Excel グラフの作成 キーワード:棒グラフ、円グラフ P142～P151	演習	グラフの作成演習
7	試験練習問題	演習	
8	定期試験	試験	

使用テキスト	30 時間でマスター Office2019
参考書・資料 等	必要に応じて、講義中に補助教材を配布する。
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	試験にて評価を行う。

	但し、出席回数が規定に満たなかった者は評価対象としない。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	解剖学		実務経験講師	○
担当者名	松山 永久		実務経験	臨床検査技師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	歯科衛生士に必要な全身の人体構造と機能について系統解剖学的に学び、口腔衛生が全身疾患と極めて密接な関係にあること理解する。また、本講義では CT や MRI 画像を利用した画像解剖学を積極的に取り入れ正常構造だけではなく病態について理解する。			
授業科目の到達目標	1. 系統解剖学的に各器官の構造と機能ついて図を描き説明できる 2. 系統解剖学を通じて口腔衛生の重要性を説明できる。 3. CT や MRI 画像から各器官の位置を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	Ⅱ 編構造と機能 第 1 章 運動器系 ①骨格系 ②筋と運動	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード：骨・骨格筋・平滑筋
2	Ⅱ 編構造と機能 第 5 章 神経系 ①中枢神経系 ②末梢神経系	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。キーワード： 大脳・小脳・脊髄・脊髄神経
3	Ⅱ 編構造と機能 第 4 章 循環器系 ①血管 ②心臓 ③動静脈 ④リンパ管	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。キーワード： 血液循環・房室弁・リンパ
4	Ⅱ 編構造と機能 第 6 章 呼吸器系 ①上気道 ②下気道 ③呼吸の調節	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。キーワード： 気管・気管支・肺
5	Ⅱ 編構造と機能 第 3 章 消化器系 ①口腔 ②食道 ③胃 ④十二指腸 ⑤小腸 ⑥大腸 ⑦ 肝胆膵 ⑧吸収と消化	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。キーワード： 消化管・肝胆膵
6	Ⅱ 編構造と機能 第 8 章泌尿器系 ①腎臓 ②尿管 ③膀胱 11 章生殖器系 ④男性生殖器 ⑤女性生殖器 ⑥性周期	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。キーワード： 尿路・精子形成・排卵
7	Ⅱ 編構造と機能 第 7 感覚器系 ①皮膚 ②眼 ③耳 第 10 章)内分泌	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード：

	③下垂体 ④甲状腺 ⑤脾臓 ⑥副腎 ⑦性腺		重層扁平上皮・視神経・ ホルモン
8	定期試験	筆記試験	定期試験 80 点 復習課題 20 点で総合評価する。

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
参考書・資料 等	講義中に紹介する。
この授業科目の前提となる主な科目	生物学
この授業科目から発展する主な科目	口腔解剖学 病理学 口腔病理学
成績評価の方法	評価時期:定期試験 評価対象および配分:定期試験 80%:復習課題 20%
その他 受講生への要望等	歯科衛生士はヒトの健康を守る診療スタッフの一員であることを自覚し、真摯な態度で授業に臨んで頂きたい。

授業科目名	生理学	実務経験講師	—
担当者名	荒井 興夫	実務経験	—
開講年度	2025 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単位数	1単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	生理学は生体の働きとその仕組みを理解する学問です。例えば、生体を構成する心臓や胃、あるいは脳などの器官についてそれぞれの働きと仕組みを学びます。それらは常に、有機的に結びついて働き、他の器官と関係なく働くことはありません。正常な働きが維持できるように身体はいろいろな調節を受けます。これをホメオスタシス(生体恒常性)と言います。生理学はこのホメオスタシスを学ぶことになります。		
授業科目の到達目標	1. 生体の構造と機能を説明できる 2. 身体の状態と生体機能を関連付けできる 3. 歯科衛生士国家試験に向けた試験対策知識を身につける		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1.神経系と神経細胞(ニューロン) ①神経系の概要(中枢神経系・末梢神経系) ②神経細胞とその働き(活動電位・伝導・伝達)	講義	【予習】 教科書 P.180・197 教科書 P.182～185 【復習】web 小テスト
2	2.筋と運動 ①筋の構造(骨格筋・筋線維・筋原線維) ②筋収縮の仕組み(滑走説・興奮収縮連関) ③筋収縮の力学(収縮様式・単収縮・強縮) ④反射(伸張反射・筋紡錘・下顎帳反射)	講義	【予習】 教科書 P.66 教科書 P.67 教科書 P.80～82 【復習】web 小テスト
3	3.感覚 ①感覚を生じるシステム(感覚器・インパルス) ②体性感覚 ③特殊感覚器(視覚・聴覚・平衡感覚・味覚・嗅覚) 4.中枢神経系の機能 5.自律神経系(交感神経系・副交感神経系)	講義	【予習】 教科書 P.156・157 教科書 P.158～163 教科書 P.166 教科書 P.168～177 教科書 P.186・190・202 【復習】web 小テスト
4	6.循環(1)—血液— ①血液の組成と機能 ②赤血球の役割(造血・ガス運搬・止血・血液型) ③白血球の役割(液性免疫・細胞傷害性免疫)	講義	【予習】 教科書 P.115・116 教科書 P.117～120 【復習】web 小テスト
5	7.循環(2)—心臓と血管— ①循環系(体循環・肺循環) ②心臓の構造と機能(刺激伝導系・心電図) ③血管と血圧調節(血圧・脈・血圧調節の仕組み) ④リンパ系	講義	【予習】 教科書 P.111・112 教科書 P.123～129 教科書 P.149 【復習】web 小テスト
6	8.呼吸	講義	【予習】

	①呼吸器の構成(気道・肺・気管・肺胞) ②ガス交換とガスの運搬(酸素解離曲線) ③呼吸運動 ④肺気量(スパイロメーター・肺活量) ⑤呼吸調節		教科書 P.221 教科書 P.225・226 教科書 P.227～231 【復習】web 小テスト
7	9.消化・吸収 ①消化器系の概要 ②嚥下(嚥下の三相・嚥下反射) ③胃における消化(ペプシン・胃酸・内因子・粘液) ④小腸における消化と吸収(膵炎・管内消化と膜消化) ⑤大腸と排便反射 10.排泄(泌尿) ①腎臓の構造と働き ②体液量の調節と排尿反射	講義	【予習】 教科書 P.84 教科書 P.89・90・98 教科書 P.100・103・106 教科書 P.236・238 【復習】web 小テスト
8	定期試験	筆記試験	【筆記試験】 主として、小テストの範囲

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
参考書・資料 等	「人体の正常な構造と機能」日本医事新報社
この授業科目の前提となる主な科目	生物学・組織発生学
この授業科目から発展する主な科目	病理学・薬理学
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	・難しい生理学用語が多く出てきますが、医療人として知っておくべき基礎的な言葉です。用語の意味と共にしっかり覚えてください。 ・生理学は難しいとされている学問です。にもかかわらず、短時間で多くの事が網羅されていますので、あらかじめシラバスに示されたページの内容を読んでおくことが大切です。読んで分からないところはチェックしておきましょう。講義中に分からないところを聞き逃さないに努めてください。 ・講義は配布する授業資料に沿って進みます。資料を見ただけでその内容が理解できるわけではありません。資料は未完成な状態です。講義をしっかり聞いて、資料にないことをメモすることで、完成します。そのことを忘れずに講義に臨んでください。 ・Web 小テストは、ホームページにアクセスして各自で学校や自宅でやってもらいます。直接、定期試験の成績には反映されませんが、アクセスが無い、成績不良の場合は指導があるかもしれません。

授業科目名	生化学		実務経験講師	—
担当者名	荒井 興夫		実務経験	—
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単位数	1単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	生化学は生命現象を分子レベルで理解し、化学反応としてとらえる学問です。生体を構成する物質や栄養素の体内での分解過程、それに伴うエネルギー生成過程や反応産物を理解し、歯の構成物質と歯科疾患を関連づけます。			
授業科目の到達目標	1. 生体の化学反応の場である細胞の構造と細胞小器官の働きを概説できる。 2. 化学反応の主体である構成成分(糖質・脂質・蛋白質)の構造と機能を概説できる。 3. 生体化学反応と歯科疾患との関連を概説できる。 4. 歯科衛生士国家試験に向けた試験対策知識を身につける。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1.人体の構成要素(1) ①生化学とは何か ②細胞の構造(細胞膜・核・細胞小器官) ③細胞の構成と栄養素(蛋白・糖質・脂質)	講義	【予習】 教科書 P.1～2 教科書 P.6～8 教科書 P.13・14 【復習】Web 小テスト
2	人体の構成要素(2) ①細胞内外の環境 ②緩衝作用 2.糖質の代謝 ①糖質の種類 ②糖質のエネルギー代謝(解糖・クエン酸回路・電子伝達系)	講義	【予習】 教科書 P.10～13 教科書 P.14～16 教科書 P.27～35 【復習】web 小テスト
3	3.脂質の代謝 ①脂質の種類 ②脂質のエネルギー代謝 4.タンパク質の代謝 ①タンパク質とアミノ酸 ②アミノ酸とタンパク質合成	講義	【予習】 教科書 P.16～19 教科書 P.19・20 教科書 P.37～39 教科書 P.39～48 【復習】web 小テスト
4	5.歯と歯周組織の生化学(1) ①上皮組織と結合組織 ②結合組織の細胞成分と細胞外マトリックス成分	講義	【予習】 教科書 P.54～61 【復習】web 小テスト
5	歯と歯周組織の生化学(2) ①歯の組成(有機成分と無機成分) ②ヒドロキシアパタイト 6.硬組織の生化学 ①石灰化の仕組み	講義	【予習】 教科書 P.61～67 教科書 P.72～74 【復習】web 小テスト
6	②血清 Ca の調節 ③骨の生成と吸収	講義	【予習】 教科書 P.68～75

	7.唾液の生化学 ①唾液の緩衝作用 ②脱灰と再石灰化 ③唾液の作用(まとめ)		教科書 P.77～81 教科書 P.82～87 【復習】Web 小テスト
7	8.プラークの生化学 ①プラークの形成 ②プラークとう蝕 ③プラークと歯周疾患発生機構	講義	【予習】 教科書 P.88～92 教科書 P.109～115 【復習】web 小テスト
8	定期試験	筆記試験	【筆記試験】

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 生化学・口腔生化学 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	栄養学・生理学
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	・講義は配布するプリントに沿って進みます。資料を見ただけでその内容が理解できるわけではありません。資料は未完成な状態です。講義をしっかりと聴いて資料にないことをメモすることで、完成します。そのことを忘れずに講義に臨んでください。 ・Web 小テストは、ホームにアクセスして各自で学校や自宅でやってもらいます。直接、定期試験の成績には反映されませんが、アクセスが無い、成績不良の場合は指導があるかもしれません。 ・目に見えない分子レベルでの生体現象の課程の理解は難しいですが、それが齲蝕や歯周疾患に結びつくことをいつも頭に入れて学習することが大切です。

授業科目名	組織発生学		実務経験講師	—
担当者名	七戸 和博		実務経験	—
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	8 回	
単位数	1単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	組織発生学は基礎歯学の特に関解剖学、生理学の基本となる学問である。			
授業科目の到達目標	1. 組織について説明できるようにする。 2. 人体の発生について説明できるようにする。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 章 細胞 ①細胞膜、オルガネラ、DNA)	講義	予習 教科書を読む P14～P21
2	②上皮、支持、筋、神経組織	講義	予習 教科書 P22～P31 を読む
3	2 章 発生 体細胞分裂、減数分裂、排卵から着床	講義	予習 教科書 P32～P38 を読む
4	④着床から三胚葉 胚子期から胎児期、	講義	予習 教科書 P38～P44 を読む
5	⑤胎児の成長と発育 鰓弓、顔面の発生	講義	予習 教科書 P41～P42 を読む
6	1 章 顔面と口腔の発生 舌、腺の発生	講義	予習 口腔発生学教科書 P2 を読む
7	2 章 歯と歯周組織の発生	講義	予習 口腔発生学教科書 P208 を読む
8	定期試験		筆記試験

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
参考書・資料 等	人体の構造と機能(医歯薬出版)
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	解剖学、生理学、病理学
成績評価の方法	定期試験 授業態度
その他 受講生への要望等	必ず予習を心がけてください。

授業科目名	口腔解剖学Ⅰ		実務経験講師	○
担当教員名	平山 亨		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	口腔とその周囲組織の構造と機能について理解する。			
授業科目の到達目標	1. 頭頸部の基本的な構造と機能について理解する 2. 歯と歯周組織の構造と機能について理解する			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	口腔付近の解剖学 ①口腔とは	講義	【予習】
2	口腔付近の解剖学 ②口腔を構成する骨	講義	【予習】 【復習】
3	口腔付近の解剖学 ③頭頸部の筋と作用	講義	【予習】 【復習】
4	口腔付近の解剖学 ④顎関節	講義	【予習】 【復習】
5	口腔付近の解剖学 ⑥神経 1.三叉神経	講義	【予習】 【復習】
6	口腔付近の解剖学 ⑥神経 ～7.東部の自律神経	講義	【予習】 【復習】
7	口腔付近の解剖学 ⑤口腔周囲の脈管	講義	【予習】 【復習】
8	歯の形態 ①歯の解剖学総論	講義	【予習】 【復習】
9	歯の形態 ②永久歯 1.永久歯の特徴	講義	【予習】 【復習】
10	歯の形態 ②永久歯 2.永久歯の形態学的特徴	講義	【予習】 【復習】
11	歯の形態 ③乳歯 1.乳歯の特徴	講義	【予習】 【復習】
12	歯の形態 ③乳歯 2.乳歯の機能と特色	講義	【予習】 【復習】
13	歯の形態 ③歯の異常	講義	【予習】 【復習】
14	全体のまとめ	講義	【予習】

15	定期試験	筆記試験	
----	------	------	--

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ「口腔解剖学」
参考書・資料 等	プリント
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	解剖学
成績評価の方法	定期試験 出席 授業態度など総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	口腔解剖学Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	小河原 敦		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	口腔およびその周囲組織のなりたちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得します。			
授業科目の到達目標	1 頭頸部の基本的な構造と機能を理解する 2 歯と歯周組織の構造と機能を理解する			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯の解剖学 総論 各種用語	講義	
2	歯の解剖学 各論 上下顎中切歯、側切歯、犬歯について	講義	
3	歯の解剖学 各論 上下顎小臼歯について	講義	
4	歯の解剖学 各論 上下顎大臼歯について	講義	
5	歯の解剖学 各論 乳歯について	講義	
6	歯の解剖学 カービング右側上顎中切歯①	演習	実験室 白衣着用
7	歯の解剖学 カービング右側上顎中切歯②	演習	実験室 白衣着用
8	歯の解剖学 総まとめ	講義	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	口腔解剖学Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	歯科保存学 歯科補綴学 小児歯科学、歯科放射線学
成績評価の方法	授業中のノート、スケッチ、カービング
その他 受講生への要望等	講義、実習は休まないようにしましょう。

授業科目名	口腔生理学		実務経験講師	○
担当者名	藤木 正実		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	8 回	
単位数	1単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	口腔生理学は、口腔、顎、顔面領域に現れる生命現象を主に扱う生理学の一分野であり、 歯、咀嚼、口腔感覚、味覚、唾液、発声などの生理機能を理解し、その理論的基盤を確立することを 目的とします。			
授業科目の到達目標	1. 口腔生理学の学習範囲内において、国家試験に合格できるだけの学力と知識を身につける 2. 歯と口腔の感覚について説明できる 3. 味覚と嗅覚について説明できる 4. 咬合と咀嚼、吸啜について説明できる 5. 咀嚼と嘔吐について説明できる 6. 唾液について説明できる 7. 発声について説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	第3章 歯と口腔の感覚 ①歯の感覚 ②口腔粘膜の感覚	講義	教科書の「歯と口腔の感覚」を読んでくる。
2	第4章 味覚と嗅覚 ①味覚 ②嗅覚	講義	「味覚と嗅覚」を読んでくる。
3	第5章 咬合と咀嚼、吸綴 ④摂食行動 2. 咀嚼	講義	「咀嚼」を読んでくる。
4	第5章 咬合と咀嚼、吸綴 ⑥吸啜	講義	「吸啜」を読んでくる。
5	第 6 章 嚥下と嘔吐 ②嚥下	講義	「嚥下」を読んでくる。
6	第 8 章 唾液	講義	「唾液」を読んでくる。
7	第 7 章 発声 定期試験説明	講義	「発声」を読んでくる。
8	定期試験	筆記試験	マークシート

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書 (参考資料等)	

この授業科目の 基礎となる科目	生物学
この授業科目を 基礎とした科目	
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	病理学		実務経験講師	○
担当者名	松山 永久		実務経験	臨床検査技師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	病理学とは、病気になった原因を探り、患者の身体に生じる変化が、どのようなものであるかを追求し、患者の治療に必要な情報を提供する学問である。			
授業科目の到達目標	1. 疾患の基本的病態を説明出来る。 2. 病態の発生機構と関連因子についての説明が出来る。 3. 病理学的用語を理解し正しく使える。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	病因・代謝障害	講義	
2	遺伝疾患と先天異常	講義	
3	循環障害	講義	
4	退行性病変・増殖と修復	講義	
5	炎症・免疫・アレルギー	講義	
6	腫瘍1	講義	
7	腫瘍2	講義	
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能
この授業科目から発展する主な科目	口腔病理学
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	必ず復習をしてください。

授業科目名	薬理学		実務経験講師	○
担当者名	田邊 幹枝		実務経験	薬剤師
開講年度	2025 年次	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15 回	
単位数	2単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	多くの薬物が投与されている患者が歯科を受診し、歯科以外の治療で使われている薬の影響などを鑑み薬物全般を学ぶ			
授業科目の到達目標	1 歯科衛生士として必要な薬物全般の知識を身につける 2 歯科衛生士国家試験対策を中心にすすめる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	I 1 章～2 章（薬物の作用と動態）	講義	
2	2 章～3 章（薬物適用方法の種類と特徴）	講義	前回のまとめのテスト
3	4 章～5 章（薬物の副作用、有害作用など）	講義	前回のまとめのテスト
4	6 章～8 章（薬物取り扱い 法律・薬物と医薬品）	講義	前回のまとめのテスト
5	II 1 章～2 章（ビタミンとホルモン、末梢神経系の薬物）	講義	前回のまとめのテスト
6	3 書 （中枢神経系に作用する薬物）	講義	前回のまとめのテスト
7	4 章～7 章（循環器系・腎臓・呼吸器系・消化器系）	講義	前回のまとめのテスト
8	8 章～9 章（血液に作用する薬物、免疫と薬）	講義	前回のまとめのテスト
9	10 章～12 章（悪性腫瘍・代謝性疾患・炎症と薬）	講義	前回のまとめのテスト
10	13 章 （痛みと薬・局所麻酔）	講義	前回のまとめのテスト
11	15 章 （抗感染症薬）	講義	前回のまとめのテスト
12	16 章 （消毒に使用する薬）	講義	前回のまとめのテスト
13	まとめテスト①(問題で復習)	試験・講義	
14	まとめテスト②	試験・講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	自分の身の回りの化粧品や台所の洗剤などに興味を持ち薬理的な角度から見直せる学びを得て欲しい。

授業科目名	微生物学		実務経験講師	○
担当者名	荻原 和孝		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15 回	
単位数	2単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	歯科衛生士が行う業務、すなわち齲蝕や歯周病等の口腔感染症に対する予防処置や患者に対する口腔衛生指導さらに診療補助業務としての治療機材の滅菌や消毒を行う為に必要な微生物学および免疫学的知識を習得します。			
授業科目の到達目標	1 微生物の病原性について理解する 2 病原微生物に対する生体防御機構、免疫について説明できる 3 院内感染対策として、滅菌・消毒の重要性を認識できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	微生物とは…疾病と微生物 ①疾病と微生物・免疫学 ②感染と感染症	講義	【予習】 教科書P1～P12
2	微生物の病原性、細菌 ①微生物の位置づけ ②細菌	講義	【予習】 教科書P13～P28 【復習】 前回授業内容小テスト
3	主な病原性細菌 ①グラム陽性菌 ②グラム陰性菌	講義	【予習】 教科書P28～P44 【復習】 前回授業内容小テスト
4	ウイルス、真菌 ①スピロヘータ、リケッチア、クラミジア ②ウイルス ③真菌、原虫	講義	【予習】 教科書P44～P73 【復習】 前回授業内容小テスト
5	宿主防御機構 ①非特異的防御機能 ②特異的防御機能	講義	【予習】 教科書P74～P81 【復習】 前回授業内容小テスト
6	免疫機構 ①免疫関連臓器と免疫担当細胞 ②抗原 ③抗体	講義	【予習】 教科書P82～P94 【復習】 前回授業内容小テスト
7	抗原抗体反応、アレルギー ①抗原抗体反応 ②アレルギー	講義	【予習】 教科書P94～P109 【復習】 前回授業内容小テスト

8	口腔微生物学 ①口腔細菌叢 ②プラーク ③歯石	講義	【予習】 教科書P110～P122 【復習】 前回授業内容小テスト
9	口腔感染症 ①う蝕 ②歯内感染症	講義	【予習】 教科書P123～P130 【復習】 前回授業内容小テスト
10	歯周病、その他の口腔感染症 ①歯周用 ②唾液腺の感染症 ③カンジダ症	講義	【予習】 教科書P130～P1143 【復習】 前回授業内容小テスト
11	化学療法 ①化学療法 ②抗真菌薬 ③抗ウイルス薬	講義	【予習】 教科書P144～P154 【復習】 前回授業内容小テスト
12	院内感染対策と滅菌・消毒 ①標準予防薬 ②滅菌法 ③消毒法	講義	【予習】 教科書P155～P166 【復習】 前回授業内容小テスト
13	細菌培養、顕微鏡観察 ①培養法・培地 ②顕微鏡観察	講義	【予習】 教科書P167～P173 【復習】 前回授業内容小テスト
14	まとめ、試験対策	講義	【予習】【復習】 授業で使用したプリントを 理解する
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版		
参考書・資料 等	同上		
この授業科目の前提となる主な科目	口腔衛生学 衛生学総論		
この授業科目から発展する主な科目	う蝕予防法 歯周病予防法 口腔外科学 臨床検査		
成績評価の方法	定期試験:9割／出席状況:1割 受講態度・小テストも加味します。		
その他 受講生への要望等			

授業科目名	衛生学総論		実務経験講師	○
担当教員名	金澤 愛		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みについて学びます。			
授業科目の到達目標	1. 健康の定義と国民の権利について説明できる 2. 人間と環境の関係を理解できる 3. 感染症の概念と感染成立の三要因を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	健康の概念・予防医学の概念 【キーワード】 WHO プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション P2～P7	講義	
2	疫学の定義および概要・疾病の方法 【キーワード】 宿主要因 環境要因 コホート研究 P8～P17	講義	小テスト (前回の内容)
3	人口の動向 人口の推移 人口動態 【キーワード】 人口ピラミッド 人口 3 区分 生産人口 P18～P33	講義	小テスト (前回の内容)
4	健康と環境(概念・空気・水・放射線) 【キーワード】 正常は空気成分 上水道 P34～P47	講義	小テスト (前回の内容)
5	健康と環境(居住・衣服・地球環境・公害) 【キーワード】 温暖化 光化学オキシダント 4 大公害病P47～P59	講義	小テスト (前回の内容)
6	感染症(感染症の概念・対策・動向) 【キーワード】 成立の三要因 ワクチン 新興感染症 P60～P75	講義	小テスト (前回の内容)
7	食品と健康(食中毒・安全性確保・食事摂取基準) 【キーワード】 細菌毒 食品表示 食事バランスガイド P75～P86	講義	小テスト (前回の内容)
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「保健生態学」／医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	

この授業科目から発展 する主な科目	口腔衛生学 公衆衛生学 微生物学
成績評価の方法	評価時期:定期試験 評価対象および配分:試験 8 割、出席状況 1 割、提出物 1 割
その他 受講生への要望等	配布プリント、小テストのファイリングをきちんと行ってください。 提出物の期限を守ってください。

授業科目名	口腔衛生学		実務経験講師	○
担当教員名	見目 仁美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	口腔の健康に影響を及ぼす様々な要因について基礎的な知識を習得し、う蝕や歯周病など口腔疾患の予防法について習得する。 また、自らの歯と口腔の健康を把握し、歯と口腔の健康づくりについて学ぶことで歯科衛生士として歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方法について学ぶ。 口腔衛生学は、他科目（歯科予防処置論、歯科保健指導論）の基礎となる内容であることも理解する。			
授業科目の到達目標	1. 歯・口腔の発育と機能ならびにそれを取り巻く歯・口腔の環境を説明できる 2. 口腔清掃の基礎と実際を説明できる 3. う蝕予防の基礎と実際を説明できる 4. 歯周疾患予防の基礎と実際を説明できる 5. その他の歯科疾患の基礎と実際を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	口腔健康の定義 「歯・口腔の健康」と予防の方法と健康づくり 【キーワード】セルフケア、プロフェッショナルケア	講義	
2	歯・口腔の健康と構造 【キーワード】歯・歯周組織、唾液腺、唾液の機能	講義	【小テスト】
3	歯・口腔の発生と成長・発育 【キーワード】歯の発生過程、歯・口腔形成異常	講義	【小テスト】
4	歯・口腔の機能 口腔の健康と全身の健康 【キーワード】咀嚼、嚥下、誤嚥性肺炎、歯性病巣感染	講義	【小テスト】
5	歯・口腔の付着物・沈着物 【キーワード】ペリクル、プラーク、主要な細菌、歯肉縁、上歯石、歯肉縁下歯石、舌苔	講義	【小テスト】
6	口腔清掃 口腔清掃の意義と清掃法 【キーワード】口腔清掃の分類、ブラッシング法	講義	【小テスト】
7	歯科疾患の疫学 歯科疾患の疫学的特性 【キーワード】歯科疾患実態調査	講義	【小テスト】

8	う蝕の予防 ①う蝕発生のメカニズムと発生要因 【キーワード】Keyes の3つの輪、Newbrun の4つの輪	講義	【小テスト】
9	う蝕の予防 う蝕活動試験について う蝕の予防法について(歯質・飲食物・口腔細菌) 【キーワード】う蝕活動性試験、う蝕発生要因に対する予防法	講義	【小テスト】
10	フッ化物によるう蝕予防 わが国のフッ化物応用(フッ化物摂取量とその基準) 【キーワード】フッ化物の摂取量とその基準、フルオロアパタイト、ヒドロキシアパタイト、フッ素症	講義	【小テスト】
11	フッ化物によるう蝕予防 【キーワード】フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口法、	講義	【小テスト】
12	フッ化物応用によるう蝕予防方法 【キーワード】フッ化物配合歯磨剤、水道水フッリデーション	講義	【小テスト】
13	歯周疾患の予防 歯周疾患の種類と発病のメカニズム 歯周疾患の炎症と広がりと症状 【キーワード】歯周組織の構造、プロービングデプス、・アタッチメントレベル	講義	【小テスト】
14	その他の疾患・異常の予防 口腔疾患の種類、要因	講義	【小テスト】
15	定期試験	筆記試験	今までの総復習

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1・保険生態学
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	口腔解剖学 栄養学 微生物学 歯科保健指導論
この授業科目から発展する主な科目	歯科保健指導論 う蝕予防法 歯周病予防法
成績評価の方法	定期試験(8割)、出席状況(2割)
その他 受講生への要望等	身近な健康問題に目を向け、衛生学・公衆衛生学と結び付けてみましょう。 授業のみならず、予習復習も大切です。

授業科目名	公衆衛生学		実務経験講師	○
担当教員名	栗田 礼子		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	歯科衛生士として必要な健康と予防医学の概念、自然・環境と健康との関係や集団を対象とした疾病予防と地域保健活動について学習します。			
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生士を目指す学生が法律を学ぶ目的を説明できる 2. 歯科関連法規を詳しく説明できる 3. 保健衛生法規の概説できる 4. 社会保険制度の概略を説明できる 5. 社会福祉関連法規の概略を説明できる 6. 生活習慣と生活習慣病について説明できる 7. ライフステージに対応した地域保健活動を説明できる 8. 災害時における歯科衛生士の役割を説明できる 9. 国際保健の概略を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	地域社会と地域保健の概念 教科書P.214～221 ①地域保健・地域社会と保健対策 ・地域包括ケアシステム ・Breslowの7項目 ②地域保健の概念 主要法令 関係行政機関 ③ハイレスクアプローチとポピュレーションアプローチ 【キーワード】 公衆衛生・地域社会・ライフスタイル	講義	【予習】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
2	地域保健の組織 ①地域保健の組織 ・国、都道府県、地町村、政令指定都市、特別区 ②保健所と市町村保健センターの違い 【キーワード】 地域社会・保健所・市町村保健センター	講義	【予習】 【確認テスト①】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
3	地域保健の新たな概念 ①ヘルスプロモーション ・概念図、目標実現のための戦術 ②ソーシャルキャピタル ③ノーマライゼーション ④健康危機管理 ・国際生活機能分類(ICF) 【キーワード】 非感染性疾患(NCDs)・オタワ憲章	講義	【予習】 【確認テスト②】 教科書を読みわからない語句を書き出す。

4	地域保健活動の進め方 PDCA サイクル ①状況の把握 ②問題の分析、活動項目の決定 ③活動計画と実施 ④活動の評価 ⑤具体的アプローチ方法 【キーワード】 アウトカム・アウトプット・プロセス・ストラクチャー	講義	【予習】 【確認テスト③】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
5	健康づくり対策と地域歯科保健 ①健康づくりの返還 ②地域歯科保健の変遷 ③健康日本 21 と健康増進法 ④歯科口腔保健の推進に関する法律(歯科口腔保健法) ⑤その他の主な地域保健福祉施策 【キーワード】 生活習慣病・健康日本 21・健康増進法・メタボリックシンドローム・8020 運動・歯科口腔保健法	講義	【予習】 【確認テスト④】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
6	母子保健1 ①母子保健の目的・意義 ②母子保健の概要 ・市町村が実施する母子保健事業 ・妊産婦および乳幼児の保健指導 ・健康診査 ・都道府県が行う母子保健施策 ③母性保険、妊産婦の職業と環境 ④小児保健 【キーワード】 母子保健法・母子保健手帳・乳幼児健診	講義	【予習】 【確認テスト⑤】 母子保健 母子保健について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
7	母子保健 2 ④歯・口腔について ・妊産婦期 ・乳児健診時 ・う蝕罹患型(1歳6か月児、3歳児) ⑤母子保健の現状と今後 ・健やか親子 21 【キーワード】 保健指導、乳幼児健診・妊婦健診	講義	【予習】 【確認テスト⑥】 母子保健 母子保健について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。

8	学校保健1 ①学校保健の意義および概要 ②学校保健職員と役職 ・校長、保健主事、養護教諭、学校三師 ③学校保健の3領域(保健教育、保健管理、組織活動) ・対人保健管理→健康診断 ④学校における歯科保健問題 ⑤学校保健教育 【キーワード】 学校保健安全法、健康診断、保健調査、事後措置、学校病、学校感染症、出席停止、	講義	【予習】 【確認テスト⑦】 学校保健の意義について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
9	学校保健2 ①学校歯科健康診断 ・定期の保健診断 ⑥学校歯科健康診断について 【キーワード】 歯式の記号、CO・GO事後措置	講義	【予習】 【確認テスト⑧】 学校保健の意義について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す
10	成人保健 ①生活習慣病の意義 ②生活習慣病 ③成人保健対策 ・特定保健診査、特定保健指導 ④市町村の健康増進事業 ・健康保健事業(がん検診、歯周疾患健診、骨粗しょう症検診、肝炎ウイルス検診) ⑤成人歯科保健 【キーワード】 日本の主な死因、基本的な健診項目、詳細な健診項目、標準的な質問票→咀嚼に関する項目	講義	【予習】 【確認テスト⑨】学校保健の意義について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
11	産業保健 ①産業保健の概念 ②職業性疾病 ・職業性歯科疾患 ③産業保健管理 ④産業保健活動 ・5管理(作業環境管理、作業管理、健康管理、健康教育、健康管理体制) ⑤健康診断および歯科健康診断 ・歯科特殊健康診断 【キーワード】 労働安全衛生法、トータルヘルスプロモーション(THP)	講義	【予習】 【確認テスト⑩】 産業保健について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。

12	高齢者保健 ①高齢者保健の現状と意義 ②高齢者保健に関する公的制度 ③介護保険制度 ・介護保険法 ・地域包括支援センターの役割、基本的機能(5つ) ④要支援、要介護高齢者に関する口腔健康管理の有用性 ・口腔機能管理、口腔衛生管理 【キーワード】 生活習慣病、歯科保健事業、介護保険法、サルコペニア、ロコモティブシンドローム・フレイル、口腔機能低下症、軽度認知障害(MCI)、後期高齢者健康診断、医療費適正化計画、通いの場、新オレンジプラン、包括ケアシステム、1号被保険者、2号被保険者、介護サービス、予防サービス、地域包括支援センター、地域ケア会議	講義	【予習】 【確認テスト⑪】 老人保健について概説する。 教科書をよく読みわからない語句を書き出す。
13	精神保健 ①精神保健とはなにか ②精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ③ライフステージにおける精神保健 ④精神保健の統計 ・入院体制の種類について ⑤精神保健福祉に関する行政機関および専門職 ⑥障害者歯科の歯科保健 【キーワード】 保健所と精神保健福祉センターの役割	講義	【予習】 【確認テスト⑫】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
14	災害時の歯科保健 ①大規模災害時の保健医療対策 ・災害救助法 ②被災地での歯科保健活動 ③災害時の個人識別における歯科衛生士の役割 国際保健 ①国際保健の概要 ②国際協力機関について ③WHOやJICAの活動概要 ④世界の歯科疾患の状況、口腔保健従事者について ⑤発展途上国の口腔保健戦略 【キーワード】 フェーズ、アクションカード、災害派遣医療チーム、トリアージタック、SDGs、世界保健機関、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、国連児童基金(UNICEF)、政府開発援助(ODA)、国際協力機構、	講義	【予習】 【確認テスト⑬、⑭】 教科書をよく読みわからない語句を書き出してくる。 ※ 確認テスト⑭については、授業最後に行います。
15	定期試験	試験	定期試験

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
参考書・資料 等	日本医歯薬研修協会 完全攻略本
この授業科目の前提となる主な科目	衛生学総論
この授業科目から発展する主な科目	歯科保健指導論Ⅱ
成績評価の方法	定期試験(80%) 課題提出・授業態度 状況(5%) 確認テスト(15%)
その他 受講生への要望等	身近な健康問題に目を向け、衛生学・公衆衛生学と結び付けてみましょう。 授業のみならず、予習・復習も大切です。授業を理解できたか判断するために、確認テストを行います。復習や学習する習慣を身に付け授業の内容を深く理解していきましょう。

授業科目名	歯科衛生士概論		実務経験講師	○
担当教員名	栗田 礼子		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	歯科衛生士の誕生や歴史的背景を学び、社会的役割や意義を理解するとともに、歯科衛生士業務に携わる心構えを養います。			
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生士の定義を述べることができる。 2. 歯科衛生業務の構成要素を説明できる。 3. 歯科衛生過程の6つのステップと意味を説明できる。 4. 健康づくり支援は、患者第一に実践されるということを説明できる。 5. 業務記録の意義を説明できる。 6. 歯科衛生の実践は倫理的でなければならない理由を説明できる。 7. 歯科衛生業務を実践するには、判断力と習熟した技術の必要性を説明できる。 8. 多職種との連携とチーム医療について説明できる。 9. 歯科衛生業務と医療安全とを関連づけて説明できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科衛生学、歯科衛生士法と歯科衛生業務 ①歯科衛生士と健康のかかわりについて ②歯科衛生活動の対象と領域について ③歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務 ④歯科衛生士の専門性 【キーワード】健康の定義、歯科衛生士、歯科衛生士養成所、歯科衛生士法、歯科衛生業務	講義	【予習】教科書P1～P7 読んでおく
2	歯科衛生士法と歯科衛生業務 ①歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務 ②歯科予防処置の概要について 【キーワード】歯科衛生士法、歯科予防処置、業務独占	講義	【予習】教科書P42～P45 を読んでおく 【復習】配布資料の確認 【小テスト】
3	歯科衛生士法と歯科衛生業務 ①歯科診療補助の概要について 【キーワード】歯科衛生士法、歯科診療補助、業務独占、保健師助産師看護師法、医行為	講義	【予習】教科書P45～P46 を読み、わからない語句を調べてくる。 【復習】

			配布資料の確認
4	歯科衛生士法と歯科衛生業務 歯科衛生活動のための理論 ①歯科保健指導の概要について ②関係法規 ③歯科衛生活動のための予防概念・保健行動の理論 【キーワード】歯科衛生士法、歯科保健指導、名称独占、第一次予防、第二次予防、第三次予防、EBM・	講義	【予習】教科書P46～P53、P20～P31を読んでおく。 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
5	歯科衛生士の活動と組織 ①歯科衛生士活動の現況 ②歯科衛生士の活動の場 ③歯科衛生士の教育機関 【キーワード】歯科診療所、保健所、介護保険施設、地域包括ケアシステム	講義	【予習】教科書P77～P89、P98を読み、わからない語句を調べてくる。 【復習】 配布資料の確認
6	歯科衛生士と医療倫理 ①歯科衛生と医療倫理 ②日本歯科衛生士憲章 ③自己決定権の尊重 【キーワード】ジュネーブ宣言、医療従事者の倫理原則、トリアージ、IFDH、パターナリズム	講義	【予習】教科書P66～P72を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
7	歯科衛生士と医療倫理 ①インフォームド・コンセントについて ③インフォームド・チョイスについて ④セカンドオピニオンについて 【キーワード】インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンドオピニオン、自立の尊重	講義	【予習】教科書P73～P76を読み、わからない語句を調べてくる。 【復習】 配布資料の確認
8	歯科衛生法と歯科衛生業務 ①医療安全管理の必要性 ②医療安全管理について法的責任について ③感染予防対策 【キーワード】ヒヤリ・ハット、医療事故、医療過誤、インシデント、アクシデント	講義	【予習】教科書P53～P65を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】

9	歯科衛生課程 ①歯科衛生課程とは ②歯科衛生過程活用の利点 ③歯科衛生課程の流れ ④歯科衛生アセスメントについて 【キーワード】歯科衛生過程、歯科衛生アセスメント	講義	【予習】教科書P32～P39 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
10	歯科衛生課程 ①歯科衛生診断、計画立案、介入、評価について ②歯科衛生士の業務記録について 【キーワード】歯科衛生診断、歯科衛生計画立案、歯科衛生介入、歯科衛生評価、業務記録(書面化)POS、SOAP	講義	【予習】教科書P38～P41を読み、わからない語句を調べてくる。 【復習】 配布資料の確認
11	チーム医療 ①歯科衛生活動の対象について ②歯科衛生活動の領域について 【キーワード】多職種、NST、地域包括ケアシステム	講義	【予習】教科書P7、P82～P85、P98 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
12	歯科衛生士の歴史 海外における歯科衛生士 ①日本の歯科衛生士の歴史 ①海外の歯科衛生士の歴史 ②海外の歯科衛生士の現状と今後 【キーワード】歯科衛生士	講義	【予習】教科書P8～P19P93～P97を読み、わからない語句を調べてくる。 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
13	歯科衛生士の活躍の場 ①周術期口腔ケア ②地域包括ケアシステム ③災害時の歯科衛生管理 【キーワード】周術期口腔ケア、健康日本21、栃木県の歯科保健	講義	【予習】教科書 P81～P88、P70 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認
14	歯科衛生士専門職と組織 歯科衛生士概論のまとめ ①歯科衛生士の社会組織活動の領域と組織活動	講義	【予習】教科書 P89～P92 を読んでおく

	②歯科衛生士概論まとめ 【キーワード】認定歯科衛生士、日本歯科衛生士会		【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本『歯科衛生士教本歯科衛生学総論』
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	歯科予防処置論・歯科保健指導論 保健生態学 歯科衛生士と法律と制度
この授業科目から発展する主な科目	歯科診療補助論・歯科予防処置論・歯科保健指導論 障害者歯科・高齢者歯科・小児歯科・統計学・衛生学総論 口腔衛生学・公衆衛生学
成績評価の方法	授業態度1割 課題レポート(内容と提出状況)小テスト2割 試験7割
その他 受講生への要望等	・歯科衛生士として学ぶ3年間の概要となり範囲が広い教科なので、授業だけでなく予習復習も大切です。 ・受講後、必ずノートと資料の内容確認し、整理してください。

授業科目名	予防システム論		実務経験講師	○
担当教員名	鳩山 恭子		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	口腔の健康に影響を及ぼすう蝕・歯周病の要因について基礎的な知識を習得します。 歯科衛生士として人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方策について学習します。			
授業科目の到達目標	1. 歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる 2. 摂食嚥下のしくみを概説できる 3. 口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる 4. プラークの形成過程と成分を説明できる 5. 歯石の形成過程と成分を説明できる 6. う蝕の原因と進行および予防方法を説明できる 7. 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 章 口腔の基礎知識 p16～p17 ①口腔・口腔周囲の構造 口腔前提、固有口腔 歯、歯周組織の構造と名称 歯の各部の名称	講義	【予習】 教科書P16～P18 までを読み、 分からない語句を書き出す。 【課題】歯、歯周組織の構造図
2	①口腔・口腔周囲の構造 p16～p19 口腔の構造（舌、小帯、口蓋） 顎関節、咽頭、喉頭 唾液腺	講義	【予習】 教科書 P16～P19 までを読んで くる。 前回の小テスト 【課題】口腔の構造・名称
3	②歯周組織 p19～p20 歯肉 歯根膜 歯槽骨 セメント質		【予習】 教科書 P19～P20 までを読んで くる。 前回の小テスト 【課題】歯肉と歯槽粘膜
4	③歯冠と歯根の形態 p21～p22 永久歯 乳歯	講義	【予習】 教科書P21～P22 までを読んで くる。 前回の小テスト 【課題】歯冠と歯根の形態
5	④口腔の機能 p22～p27 口腔機能 摂食嚥下のしくみ	講義	【予習】 P22～P27 までを読んでくる。 前回の小テスト 【課題】5 期モデル

6	2章 う蝕と歯周病の基礎知識 ①口腔内の付着物・沈着物 ペリクル マテリアルバ 食物残渣 プラーク	p28	講義	【予習】 教科書P28を読んでき。 前回の小テスト 【課題】 付着物の特徴
7	①口腔内の付着物・沈着物 歯石 色素沈着 舌苔	p29～p30	講義	教科書P29～P30 を読んでくる。 前回の小テスト 【課題】 付着物の特徴
8	定期試験			【復習】 今までの総復習

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」(医歯薬出版)
参考書・資料 等	口腔解剖学
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	歯周病予防法Ⅰ、Ⅱ・う蝕予防法Ⅰ、Ⅱ・歯周療法学・保健指導論Ⅰ、Ⅱ
成績評価の方法	小テスト 定期試験 出欠席 課題提出状況
その他 受講生への要望等	歯と歯周組織の基礎知識から学びます。1番早い定期試験になりますので良く予習復習して授業に臨んでください。

授業科目名	歯周病予防法 I		実務経験講師	○
担当教員名	鳩山 恭子		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	通年	
年 次	1 年次	授業回数	30 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得します。1 年次ではマネキンを使用した基礎実習で基本操作を身に着けます。			
授業科目の到達目標	1. 歯科予防処置の概念と内容を概説できる 2. 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる 3. 歯科予防処置の業務(歯科衛生実践)を概説できる 4. 医療保険制度における歯科予防処置を理解できる 5. 歯周病の原因と分類、進行および予防法を説明できる 6. 口腔の機能的な問題を把握できる 7. 口腔内の観察項目とポイントを列挙できる 8. 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる 9. 歯周病の指数を説明できる 10. 画像からの情報収集を説明できる 11. 歯周病に関連する検査を列挙できる 12. スケーラーの種類と使用目的を説明できる 13. シックルタイプスケーラーを操作できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
I	I 編 総論 1 章 予防の概念と我が国の健康施策 p2～p4 ①予防の概念 2 章 歯科予防処置論で学ぶこと p9～p14 ①歯科衛生士法における歯科予防処置の位置付け ②歯科衛生実践の進め方 ③医療保険制度における歯科予防処置	講義	【予習】 P2～p14読んで きてください。 【課題】 予防処置とは
2	II 編 歯科予防処置・歯科保健指導の基礎知識 2 章 う蝕と歯周病の基礎知識 p38～p43 ③歯周病	講義	【小テスト】 前回の内容 【課題】 歯周病の特徴
3	III 編 歯科予防処置・歯科保健指導各論 2 章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 ⑥口腔の器質的問題の把握 p104～p108 1. 口腔内の観察 2. 検査項目 1) 歯 2) 歯肉 3) 舌 4) 口腔粘膜 5) 唾液	講義	【小テスト】 前回の内容 【課題】 健康な歯肉、病的 な歯肉
4	6) 歯面の付着物 p108～p112 (1) 探針の使用目的	講義	【小テスト】 前回の内容

	(2)探針の基本操作(エクスプロービング) (3)プラーク (4)歯石		【課題】 エクスプロービング
5	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 ①スケーリング・ルートプレーニング p155～p156 1. スケーリングの基本 1)スケーリング時の姿勢 2)スケーリング時のポジショニング マネキンの取り扱い	講義 実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 基本姿勢
6	3)スケーラー p157～p161 4)手用スケーラーの構成 5)スケーラーの把持法 6)スケーラーの固定 7)スケーラーの運動	講義 実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 スケーラー スケーラーの運動
7	2. デンタルミラー操作の基本 p161～p163	講義 実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 ミラー操作
8	3.スケーラーの種類 p163～p167 4. 手用スケーラーと操作法	講義 実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 手用スケーラーの 特徴
9	マネキン実習 下顎前歯部 唇側 シックルスケーラーによるスケーリング	実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 実習記録
10	マネキン実習 下顎前歯部 舌側 シックルスケーラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
11	マネキン実習 上顎前歯部 唇側 シックルスケーラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
12	マネキン実習 上顎前歯部 口蓋側 シックルスケーラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
13	マネキン実習 スケーリング確認 試験対策	実習	
14	実技試験	実技試験	
15	中間試験	筆記試験	
16	Ⅲ編 歯科予防処置・歯科保健指導各論 2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 ⑥口腔の器質的問題の把握 7)歯周ケット p112～p116	講義	【小テスト】 前期の内容 【課題】 歯周ポケット

17	8)根分岐部病変 9)歯の動揺度 10)口臭 p117～p122	講義	【小テスト】 前回の内容 【課題】 根分岐部病変の分類 歯の動揺度分類
18	マネキン実習 プロービング、動揺度	実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 実習記録
19	2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 ⑧分析のためのデータ 1. 指標 2)歯周病の指数 p130～p134	講義	【小テスト】 前回の内容 【課題】 歯周病の指数
20	2. 写真・画像 3. 歯周病に関する検査 p138～p140	講義	【小テスト】 前回の内容 【課題】 画像から読み読み取れる情報
21	マネキン実習 下顎右側臼歯部頬側 シックルスケラーによるスケーリング	講義 実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 実習記録
22	マネキン実習 下顎右側臼歯部舌側 シックルスケラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
23	マネキン実習 下顎左側臼歯部頬側シックルスケラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
24	マネキン実習 下顎左側臼歯部舌側シックルスケラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
25	マネキン実習 上顎右側臼歯部シックルスケラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
26	マネキン実習 上顎左側臼歯部シックルスケラーによるスケーリング	講義 実習	【課題】 実習記録
27	試験対策(攻略本などの問題解説) 歯周組織検査 指標 画像	講義	【小テスト】 前回の内容 【課題】
28	マネキン実習 臼歯部 シックルスケラーによるスケーリング	実習	【小テスト】 前回の内容

	全額プロービング		【課題】 実習記録
29	実技試験	実技試験	
30	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・保健指導論(第2版)
参考書・資料 等	口腔解剖学、口腔組織発生学、口腔生理学、微生物学、保健生態学、保健情報統計学、歯周病学、 歯科放射線学
この授業科目の前提となる主な科目	予防システム論
この授業科目から発展する主な科目	歯周病予防法Ⅱ、歯周病学
成績評価の方法	評価時期:実技試験、定期試験 評価対象:定期試験、実技試験、出席状況、課題
その他 受講生への要望等	歯周組織の仕組みが理解できていないと、イメージが出来ません。付着物、沈着物の特徴もしっかり復習しておいてください。 基本を学びますので欠席のないようにしてください。

授業科目名	う蝕予防法 I		実務経験講師	○
担当教員名	大野 久美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	う蝕予防処置は歯科衛生士の三大業務の中の一つの歯科予防処置の中であり、重要な業務であります。 う蝕発生や進行のメカニズムを理解し、歯科衛生士として人々の歯、口腔の健康の維持・増進をさせるためにう蝕予防の専門的な知識、技術を学びます。			
授業科目の到達目標	1. う蝕の発生・原因について理解する 2. う蝕の進行及び進行度の分類について理解する 3. フッ化物の基礎知識が理解できる 4. フッ化物応用方法の理解ができ、説明できる 5. う蝕活動性試験の意義・条件・目的を理解する 6. う蝕活動性試験の種類を理解し、説明できる 7. 小窩裂溝填塞法を理解し、術式を理解する			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	う蝕予防法について ②う蝕とは・う蝕の分類・発生のメカニズムについて 教科書 P.2～5、P.32～35	講義	う蝕についてイメージ プリント記入
2	う蝕の原因・う蝕の予防レベル う蝕の原因について(カイス・Fejerskov の発生要因) 教科書 P.35～37	講義	う蝕の進行・分類について 予防レベル
3	食品とう蝕発生 糖質の分類・誘発性・代用甘味料について ワークシート演習 書き込み 教科書 P.69～79	講義・演習	代用甘味料の食品持参 プリント提出・確認テスト
4	フッ化物の応用 フッ化物歯面塗布について	講義	1～3 回までの授業内容小 テスト
5	フッ化物の応用 フッ化物洗口について	講義	
6	フッ化物洗口 洗口法 実習 40 名	校内実習・演習 実験室	持ち物：白衣一式
7	フッ化物の応用 フッ化物配合歯磨剤について	講義	

8	フッ化物の毒性と急性中毒 悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出法について フッ化物洗口でのフッ素量・フッ化ナトリウム量 算出方法について	講義	フッ化物応用によるう蝕予防法についての小テスト
9	フッ化物応用 悪心嘔吐発現算出の復習 確認テスト	講義	悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出法の小テスト
10	小窩裂溝填塞法(フィッシャーシーラント) 目的、手順、使用器具	講義	
11	う蝕活動性試験① 意義、条件、目的	講義	
12	う蝕活動性試験② う蝕活動性試験の種類について 次回実習についての説明	講義	
13	う蝕活動性試験③ RDテスト実習	講義・実習 実験室	う蝕活動性試験について 実習日誌の提出
14	う蝕予防法Ⅰのまとめ・振り返り・復習	講義	う蝕活動性試験の確認テスト
15	定期試験	試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
参考書・資料 等	「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」
この授業科目の前提となる主な科目	予防システム論、口腔衛生学、公衆衛生学、保健指導論、臨床実習指導
この授業科目から発展する主な科目	保健指導論
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象及び配分：試験 8 割、授業態度 1 割、小テスト・提出物 1 割
その他 受講生への要望等	配布プリント、小テストのファイリングをきちんと行ってください。 提出物の期限を守り、授業態度を正してください。

授業科目名	保健指導論Ⅰ		実務経験講師	○
担当教員名	見目 仁美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	通年	
年 次	1 年次	授業回数	60 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間	
授業科目の概要	歯科医療に従事する者として最も基礎となる科目です。 口腔の構造や機能を理解し、口腔の健康を対象者自身が考え、より良い健康の為にどのような行動したら良いかの働きかけをする業務です。 1 年生前期では主に基礎となる口腔の働きや、毎日欠かすことのできない歯磨き法、食生活指導の前提となる栄養について学んでいきます。			
授業科目の到達目標	1. 歯科保健指導の概要と目的を理解する 2. 口腔の構造や機能を理解する 3. 食生活指導の概要を知る 4. 栄養素の種類と働きを知る 5. 口腔清掃の手段やその道具について理解する 6. 各種口腔清掃方法を行うことができる 7. 国民の健康と栄養の状況を把握できる 8. 食品とう蝕活動性の 関係を説明できる 9. 歯科衛生過程の進め方を理解できる 10. 保健行動支援のための基礎知識が理解できる 11. 歯科衛生アセスメントの流れを説明できる 12. 歯科衛生計画を書面化できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科保健指導の概要 歯科保健指導の必要性	講義	
2	歯科保健指導の定義 「歯科衛生士法」における歯科保健指導の位置づけ	講義	【小テスト】 前回の授業内容
3	歯科衛生業務 歯科予防処置 歯科診療補助 歯科保健指導	講義	【小テスト】 前回の授業内容
4	歯科保健指導 健康教育、行動科学、行動変容	講義	【小テスト】 前回の授業内容
5	健康の概念 健康の定義、プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション	講義	【小テスト】 前回の授業内容
6	健康日本 21(第三次)	講義	【小テスト】

	予防の概念		前回の授業内容
7	口腔・口腔周囲の構造 歯、歯肉、舌顎関、顎関節、唾液腺	講義	【小テスト】 前回の授業内容
8	口腔衛生管理に関わる指導① 歯磨剤の成分	講義	【小テスト】 前回の授業内容
9	口腔衛生管理に関わる指導② 歯磨剤の成分	講義 演習	【小テスト】 前回の授業内容
10	洗口液・洗口剤 種類 基本的な使用方法	講義	【小テスト】 前回の授業内容
11	保湿剤 種類 基本的な使用方法	講義	【小テスト】 前回の授業内容
12	歯ブラシの構造①	講義	【小テスト】 前回の授業内容
13	歯ブラシの構造② グループワーク	講義 演習	【小テスト】 前回の授業内容
14	口腔清掃① ブラッシング法 模型実習	講義 演習	【小テスト】 前回の授業内容
15	口腔清掃② ブラッシング法 模型実習	講義 演習	【小テスト】 前回の授業内容
16	清掃補助用具の使用方法① 模型実習 デンタルフロス 歯間ブラシ タフトブラシ	講義 演習	【小テスト】 前回の授業内容
17	清掃補助用具の使用方法② 模型実習 粘膜ブラシ 舌ブラシ 義歯用ブラシ	講義 演習	【小テスト】 前回の授業内容 【課題】実習記録
18	歯垢染色剤	講義	【課題】 実習記録
19	実習(染め出し)	実習	【課題】 実習記録
20	相互実習(染め出し)	実習	【課題】 実習記録
21	各種ブラッシング法 実技試験	実技試験	【課題】 実習記録
22	各種ブラッシング法 実技試験	実技試験	【課題】 実習記録
23	口腔衛生状態の指数	講義	

24	歯周疾患の指数	講義	【課題】 前回の授業内容
25	患者指導(ブラッシング方法)	講義	【小テスト】 前回の授業内容
26	患者指導(ブラッシング方法)	講義 演習	【小テスト】 前回の授業内容
27	患者指導(歯ブラシ以外の清掃用品)	演習	【課題】 実習記録
28	相互実習(染め出し、PCR)	実習	【課題】 実習記録
29	相互実習(染め出し、PCR)	実習	【課題】 実習記録
30	中間試験	試験	
31	国民の健康と栄養の現状 国民栄養の現況 高齢者の低栄養	講義	
32	エネルギー摂取量と栄養素摂取量 近年の食生活の特徴 国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み	講義	【小テスト】 前回の授業内容
33	食事バランスガイド 栄養素の機能①	講義	【小テスト】 前回の授業内容
34	栄養素の機能② 糖質(炭水化物)	講義	【小テスト】 前回の授業内容
35	栄養素の機能③ 脂質	講義	【小テスト】 前回の授業内容
36	栄養素の機能④ タンパク質、ビタミン	講義	【小テスト】 前回の授業
37	栄養素の機能⑤ ミネラル、水、食物繊維	講義	【小テスト】 前回の授業
38	栄養素の消化吸収	講義	【小テスト】 前回の授業
39	食事摂取基準 食品とう蝕誘発性	講義	【小テスト】 前回の授業内容
40	代用甘味料	講義	【小テスト】 前回の授業内容
41	代用甘味料グループワーク	演習	【小テスト】 前回の授業内容

42	相互実習(舌・頬粘膜観察)	実習	【小テスト】 前回の授業内容
43	相互実習(舌・頬粘膜観察)	実習	【小テスト】 前回の授業内容
44	歯周病と食生活 咀嚼と食品 食生活と食品	講義	【小テスト】 前回の授業内容
45	特別用途食品と保健機能食品	講義	【小テスト】 前回の授業内容
46	行動変容に関連する理論① 健康信念モデル 学習理論(オペラント条件づけ) 社会的認知理論(自己肯定感)	講義	【小テスト】 前回の授業内容
47	行動変容に関連する理論② 行動変容ステージモデル	講義	【小テスト】 前回の授業内容
48	行動変容を促す理論と実践① ストレスとストレスコーピング 認知行動療法	講義	【小テスト】 前回の授業内容
49	行動変容を促す理論と実践② 動機づけ面接	実習	【小テスト】 前回の授業内容
50	歯科衛生過程の概要① 6つの構成要素 クリティカルシンキング 臨床推論	講義	【小テスト】 前回の授業内容
51	歯科衛生士の視点による問題解決① ニード理論 ヒューマンニーズ概念モデル 国際機能分類(ICF)	講義	【小テスト】 前回の授業内容
52	歯科衛生士の視点による問題解決② MIDORI モデル 動機づけ面接 クライアント・セルフケア・コミットメントモデル	実習	【小テスト】 前回の授業内容
53	歯科衛生アセスメント① 情報収集 種類 ツール 解釈・分析	講義	【小テスト】 前回の授業内容
54	歯科衛生診断 歯科衛生診断 情報の統合 診断句 原因句	講義	【小テスト】 前回の授業内容
55	歯科衛生計画 ゴール目標 目標設定のプロセス 立案	講義	【小テスト】 前回の授業内容
56	歯科衛生介入① 「SOAP」形式による実施記録	講義	【小テスト】 前回の授業内容
57	歯科衛生評価 記録の書面化	講義	【小テスト】 前回の授業内容

58	食事バランスガイド・グループワーク	演習	【課題】 食事記録
59	歯周病と食生活・グループワーク	演習	
60	筆記試験	筆記試験	

使用テキスト	最新 歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第 2 版
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	予防システム論 口腔衛生学
この授業科目から発展する主な科目	予防システム論 歯科保健指導論Ⅱ う蝕予防Ⅰ
成績評価の方法	筆記試験(80 点)、実技試験(10 点)、提出物(10 点) 欠席、授業態度(減点評価)
その他 受講生への要望等	忘れ物のないようにしっかりと準備をしましょう。 課題等の提出期限は必ず守りましょう。

授業科目名	歯科診療補助法Ⅰ		実務経験講師	○
担当教員名	青木美日		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 度	学 期	通年	
年 次	1年次	授業回数	30 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を修得します。			
授業科目の到達目標	1. 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる 2. 医療安全の知識を身につけ、偶発時の適切な対処法を知る 3. 感染予防の知識を身につけ、標準予防策を実行できる 4. 医療安全、感染予防に留意し、共同動作を行うことができる 5. 材料の特徴を理解し、印象採得ができる 6. 材料の特徴を理解し、石膏模型の作製ができる 7. 材料の特徴を理解し、セメント練和ができる 8. 材料の特徴を理解し、安全に気をつけて印象採得ができる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科診療補助の概念 ①歯科診療補助の法的解釈 ②診療補助業務と他の医療職種	講義	教本を見て予習をしておくこと
2	医療安全 ①医療安全とは ②医療事故とインシデント ③医療安全対策	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
3	医療安全 ④一次救命処置のアルゴリズム	講義 実習	【小テスト】 ・前回の授業内容
4	感染予防対策 ①歯科医療における感染症の概念 ②歯科医療における感染予防対策	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
5	感染予防対策 ③手指衛生、擦式消毒	講義 実習	【小テスト】 ・前回の授業内容
6	滅菌と消毒 ①滅菌法 ②消毒法 ③洗浄(超音波洗浄)	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
7	医療廃棄物処理 ①分類と分別 ②処理	実習 実験室、実習室	【小テスト】 ・前回の授業内容

	診療室における受診の流れ ①患者対応の基本 ②特別な配慮が必要な患者対応 ③滅菌、消毒の仕方		【小テスト】 ・前回の授業内容
8	共同動作 ①共同動作の概念 ②術者、補助者、患者のポジショニング ③フォーハンドデットデンティストリー	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
9	共同動作 ①器具の受け渡し ②バキュームテクニック ③スリーウェイシリンジテクニック	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
10	共同動作 ①ポジショニング、ライティング ②バキュームテクニック ・模型実習	講義 実習 実験室	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習日誌
11 12	実技試験練習 ①ライティング、バキュームテクニック ・模型実習 実技試験、中間試験範囲確認	実習 実験室	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習日誌
13 14	実技試験 ①バキューム ②ライティング	実技試験 実験室	【課題】 ・プリント (待機中の学生) ・自己評価表
15	中間試験 ・筆記試験 90 分	筆記試験	【休暇中の課題】 ・前期の復習プリント
16	薬品・歯科材料の管理 歯科材料の基礎知識 ①歯科材料の特徴 ②歯科材料の保管	講義	
17	印象材 ①印象採得について ②印象材の種類、特徴	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
18	アルジネート印象材練和実習 ①アルジネート印象材の特徴 ②アルジネート印象材の取扱い ③アルジネート印象材の練和方法	実習 実験室	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習日誌
19 20	アルジネート印象材練和実習 ①スプーン 1 杯印象材練和 ②回転トレーでの印象採得	実習 実験室	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】

	③寒天アルジ連合印象デモ		・実習日誌
21	石膏について ①石膏の種類、特徴 ②石膏の取扱い ③石膏の練和方法	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
22 23	石膏注入模型実習(普通石膏、硬石膏、超硬石膏) ①片顎印象体 ②石膏の重さの違い、練和の違いを知る	実習 実験室	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習日誌
24	合着材・接着材 ①合着材、接着剤の基礎知識 ②使用機器 ③練和の基本 ④合着材、接着材の種類、特徴	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
25	合着材の練和实践 ①ポリカルボキシレートセメント ②従来型 GI セメント ③レジン添加型 GI セメント	実習 実験室	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習日誌
26	合着材の練和实践 ①リン酸亜鉛セメント	実習 実験室	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習日誌
27	実技試験練習 ①アルジネート練和、印象採得 ②合着材練和 ・模型実習 実技試験、定期試験範囲確認	実習	【小テスト】 ・前回の授業内容
28 29	実技試験 ①アルジネート練和、印象採得 ②合着材練和	実技試験	【課題】 ・プリント (待機中の学生) ・自己評価表
30	定期試験 ①筆記試験 90 分	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生士シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生士シリーズ 歯科材料 歯科衛生士シリーズ 歯科機器
参考書・資料 等	おしごとハンドブック

この授業科目の前提となる主な科目	実習科目：歯科保健指導論、歯周病予防法、う蝕予防法 講義科目：歯科衛生士概論
この授業科目から発展する主な科目	実習科目：歯科保健指導論、歯周病予防法、う蝕予防法 講義科目：救急蘇生法、臨床検査法
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象および配分：試験(90 点)、小テスト・課題(10 点) 欠席状況、授業態度(減点評価)
その他 受講生への要望等	課題は提出期限を厳守する事(過ぎた場合は減点) 医療に携わるベースとなる教科です。 実習をやむを得ず欠席した場合、必ず補講を行いますので申し出てください。 なるべく休まないでください。

授業科目名	実習指導 I		実務経験講師	○
担当教員名	見目 仁美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	歯科医療現場に相応しい態度で臨地・臨床実習に臨むため、歯科医療に携わる者としての心構えを学びます。			
授業科目の到達目標	1. 医療現場にふさわしい身だしなみができる 2. 社会の一員としての協調性や基本的態度を身につける 3. 対象者の守秘義務を遵守できる 4. 感染予防対策の目的を理解し、方法を習得する 5. 患者の主訴を把握し、治療の流れを考えることが出来る 6. 患者とのコミュニケーションを学び、実践する			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨地・臨床実習について・実習生としての心構え	講義	
2	実習日誌の重要性・実習評価・事故報告書 3文日記	講義	3文日記 実習の手引き、おしごとハンドブック
3	諸注意・出欠表・評価表・スケジュール表	講義	3文日記 実習の手引き
4	清潔不潔について 白衣着用 身だしなみ確認 ユニット(器具器材の名称)の使用方法的確認 準備室にて滅菌・消毒 基本セット	講義 演習 実習室	3文日記 教科書 歯科診療補助論 実習の手引き、おしごとハンドブック
5	歯科医院で使用している器材・薬剤	講義 演習	3文日記 教科書 歯科診療補助論 おしごとハンドブック
6	小窩裂溝填塞法に使用する器具器材・術式	講義 演習	3文日記 教科書 歯科予防処置 おしごとハンドブック
7	う蝕治療に使用する器具器材・直接修復法の手順	講義 演習	3文日記 教科書 歯科診療補助論 おしごとハンドブック
8	実習施設発表・実習定期について 実習スケジュールについて	講義	3文日記
9	髪色チェック 名札用写真撮影(白衣着用)	演習	白衣

10	オリエンテーションについて 電話連絡	講義	3文日記
11	身支度チェック スーツ持参、パンプス、サブバック確認、白衣、シューズ	演習	スーツ、パンプス、サブバック(黒)
12	誓約書・質問表・カレンダー確認	講義	3文日記 印鑑
13	器具器材確認テスト	演習	3文日記
14	臨床実習Ⅰ最終確認 評価表、出欠表、実習日誌配布	講義	3文日記
15	実習報告会 ・実習の振り返り、自己評価 45分 ・グループ発表 45分	発表	

使用テキスト	実習の手引き
参考書・資料 等	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 おしごとハンドブック
この授業科目の前提となる主な科目	歯科衛生士概論 コミュニケーション学
この授業科目から発展する主な科目	臨地・臨床実習Ⅰ
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象および配分：発表、自己評価表(60点)・小テスト(20点)・課題提出(10点)・出席状況(10点)
その他 受講生への要望等	臨床実習に関する内容のため、重要な連絡も講義時に行います。欠席のないようにしてください。 欠席した場合は必ず内容を聞きに来てください。言葉遣いや挨拶、返事については日ごろから気を付けて生活してください。

授業科目名	臨地・臨床実習Ⅰ		実務経験講師	○
担当者名	見目 仁美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数		
単位数	1 単位	単位時間数	45 時間	
授業科目の概要	学内で学んだ知識・技術・態度をもとに、歯科医療現場で体験実習し歯科医療における歯科衛生士の役割を主体的に学び、医療従事者にふさわしい人格を育てます。 1 年次は基本的な接遇、態度知識を身につけ 2 年次、3 年次の実習につなげていきます。			
授業科目の到達目標	1. 医療人としての清潔な身だしなみを整え、臨床実習に臨むことが出来る 2. 時間や期限を守ることが出来る 3. 明るくさわやかに挨拶が出来る 4. 対象者に応じて正しい敬語を使う 5. 何事に対しても積極的に行動できる 6. 報告・連絡・相談が出来る 7. 健康管理ができる 8. 歯科衛生士の役割を理解出来る 9. 歯科診療の実習を節度ある態度で臨むことが出来る			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
	実習の手引き参照 ・歯科医院について学ぶ 受付 環境整備 器材管理 薬剤管理 ・医療人としての姿勢を学ぶ 遅刻・早退・欠席をしない 清潔な身だしなみ 言葉遣いや態度 報告・連絡・相談 ・患者誘導 ・基本セットの準備、片付け、洗浄、消毒、滅菌 ・ユニットの清拭 ・アルジネート印象材練和(手練り) ・合着、仮着用セメントの練和 ・バキューム操作	歯科医院での臨床実習	臨地・臨床実習日誌 実習課題 実習後振り返り

使用テキスト	
--------	--

参考書・資料 等	新人歯科衛生士・デンタルスタッフ おしごとハンドブック 医歯薬出版株式会社
この授業科目の前提となる主な科目	実習指導Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	臨地・臨床実習Ⅱ、Ⅲ
成績評価の方法	出席状況、実習態度、実習日誌、実習評価表をもとに総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	校外実習のため、指導者の指示に従い実習を行うことになります。学校で学んだ知識や技術をもとに実践的な内容を身につけます。歯科衛生士としての現場に出るという意識をもって臨んでください。

授業科目名	特別活動 I		実務経験講師	○
担当教員名	見目 仁美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	通年	
年 次	1 年次	授業回数	23 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	45 時間	
授業科目の概要	各種行事やセミナーを通じ、職業人としての心構えを育み、協調性を身に着けます。 IPE の演習授業を通して、多職種連携へ意識の向上を図ります。 デンタルエステの知識と技術を身につけます。			
授業科目の到達目標	1. 職業人としての常識が理解出来る 2. 学校行事を通して協調性を身に着ける 3. 式典への出席を通して礼儀作法を身に着ける 4. 医療人としての清掃方法を身に着ける 5. 歯科衛生士を目指すモチベーションを高める 6. IPE 演習授業を通して多職種連携について理解を高める 7. デンタルエステについての講義、相互実習を通して知識や技術を見につける			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	入学式	学校行事	礼法を身につける
2	宿泊研修①	学校行事	
3	宿泊研修②	学校行事	IPE 演習授業授業
4	スポーツ大会（栃木校と合同）	学校行事	
5	うづま祭打ち合わせ	学校行事	組織活動を身につける
6	うづま祭準備	学校行事	組織活動を身につける
7	うづま祭	学校行事	組織活動を身につける
8	うづま祭	学校行事	組織活動を身につける
9	決意式	学校行事	礼法を身につける
10	夏期課題 確認テスト	試験	前期の履修した科目の攻略本の課題から出題
11	デンタルエステの概要	講義	
12	リンパマッサージの目的や効果 顔と頭部のマッサージの目的や効果	講義	
13	相互実習 ・歯肉と頬粘膜のマッサージ	実習室 相互実習	白衣、身だしなみ整える
14	・顔と頭部のマッサージ		
15	の目的や効果について リップエステの目的と効果について	講義	

16	相互実習 ・歯肉と粘膜のマッサージ	実習室 相互実習	白衣、身だしなみ整える
17	・リップエステ ・評価(振り返り)		
18	まとめテスト	試験	
19	IPE 2学科 演習授業	演習授業	
20	交流会 スポーツ大会(小山校のみ)	自治会行事	
21	自治会行事 交流会	自治会行事	
22	予餞会 卒業式リハーサル	学校行事	
23	卒業式	学校行事	礼法を身につける

使用テキスト	歯科衛生士国家試験 完全攻略本
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	国家試験対策
この授業科目から発展する主な科目	歯科医療接遇 コミュニケーション学 審美歯科
成績評価の方法	出席、身だしなみ、態度など総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	・社会に出る皆さんにとって身になる教科です。高い意識をもって臨みましょう。すべて1度きりの体験となりますので欠席しないようにしてください。 ・IPE の演習授業や審美歯科についての知識や技術の習得、相互実習の授業もあります。身だしなみを整え、積極的に参加しましょう。